



個人投資家様向け 株式会社エノモト

# 会社説明資料

2021年8月28日

**ENOMOTO Co.,Ltd.**

東証一部 証券コード:6928

# 1.会社概要



# 会社案内動画

<https://youtu.be/DU-AF3ihWHM>



社名	株式会社 エノモト ENOMOTO Co.,Ltd.
設立	1967年4月(創業 1962年7月)
代表取締役社長	武内 延公
本社所在地	山梨県上野原市上野原8154-19 TEL : 0554-62-5111
生産拠点	本社工場:山梨県甲州市／山梨県上野原市 津軽工場:青森県五所川原市 岩手工場:岩手県上閉伊郡大槌町 技術部 :山梨県甲州市 エノモトフィリピン:フィリピン カビテ州(連結子会社) 中山エノモト:中国 広東省 中山市(連結子会社)
資本金	4,749百万円
従業員数 (2021年3月31日現在)	国内 :486人 ※国内従業員 平均年齢 41.8歳 フィリピン:526人 中国 :215人
事業内容	(1).各種半導体用部品(リードフレーム)及びコネクタ用部品製造、販売 (2).プレス金型及びインサート成形金型の開発、設計、製作





みなさまのすぐそばに  
エノモト



## < 新規事業 >

・車載関連FCV向け  
燃料電池部品（開発中）

## < 自動車 >



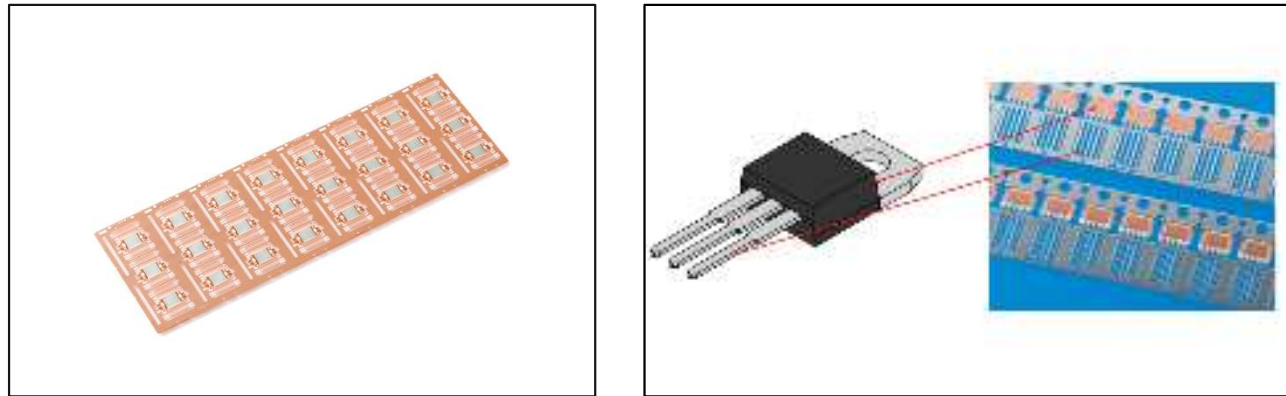
- ① コネクタ用部品  
エアバッグ起動装置
- ② スイッチ用部品  
各種スイッチ（シート、  
ワイパーなど）
- ③ コネクタ用部品  
カーオーディオ
- ④ センサー用リードフレーム  
オートライトセンサー・日射センサー



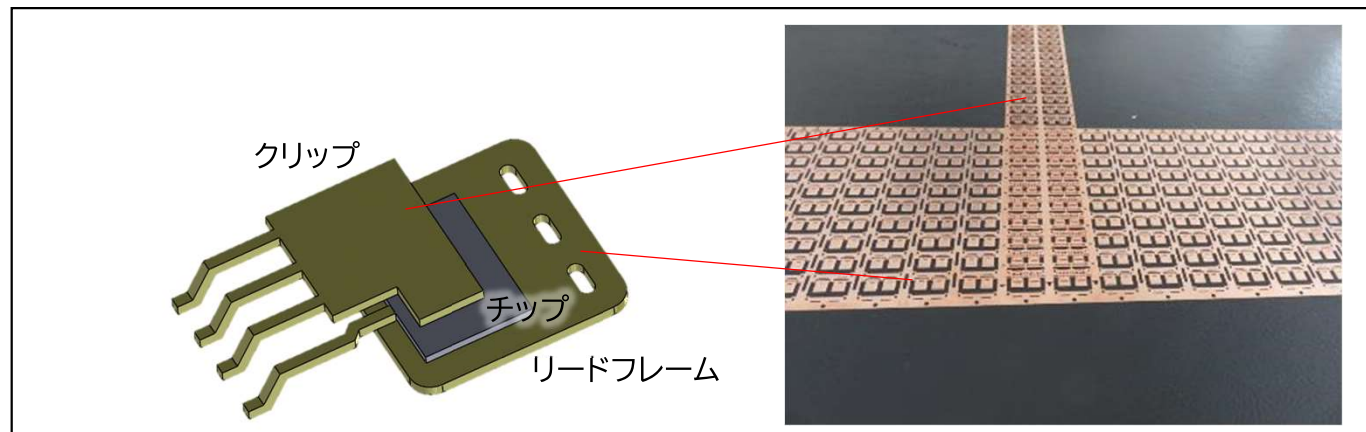
- ⑤ 電子部品  
MLCC 等の関連部品
- ⑥ パワー半導体用リードフレーム  
エンジン・モーター等  
周辺制御装置等
- ⑦ LED リードフレーム  
ヘッドライト・テールランプ  
・ブレーキランプ

- パワー半導体のチップを乗せる「台座」及び通電させる「端子」の部分
- 先端品では高電圧・高電流に耐える為、フレームとクリップでチップを挟む→ワイヤレスボンディング方式
- 高い精度や清浄性、品質安定性の要求 → 当社の優位性

## IC・トランジスタ用リードフレーム

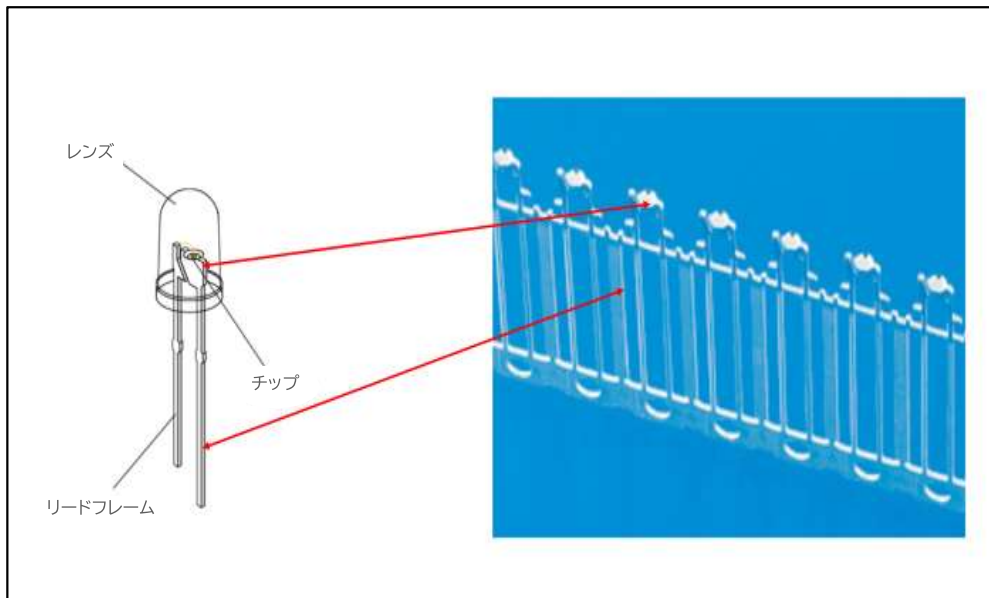


## ワイヤレスボンディング方式 パワー半導体用リードフレーム

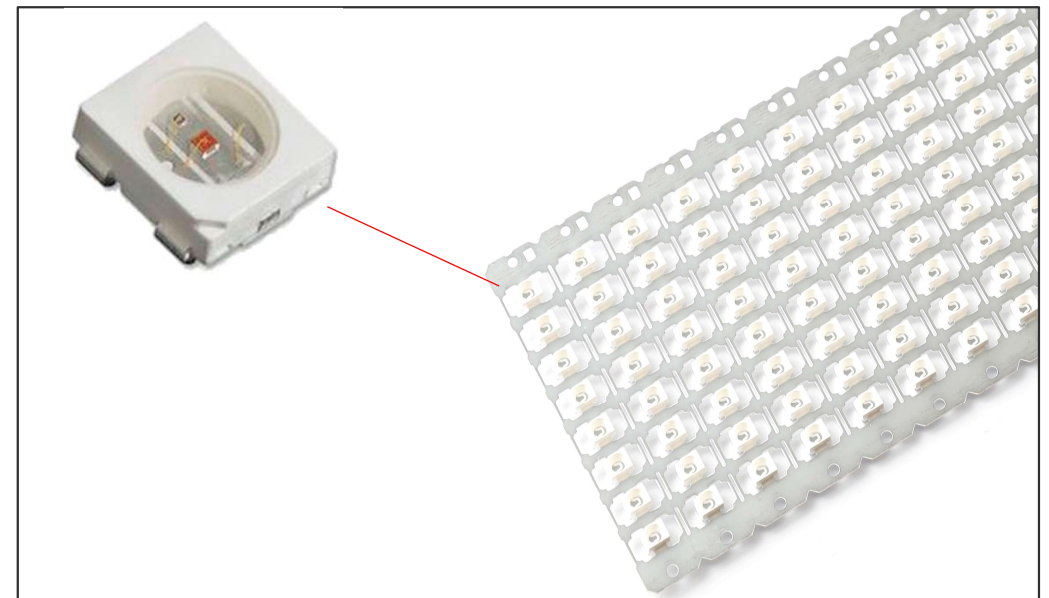


- 当社の販売先(LEDメーカー)でチップを乗せて光源となる
- チップを乗せる部分(カップ)の高い形成技術で、より鮮やかな輝きを作る
- 大きく分けて砲弾型と表面実装(SMD)の2種類
- 砲弾型のリードフレームを大量生産できる、国内唯一のメーカー

## LED用リードフレーム(砲弾型)



## LED用リードフレーム(SMD)

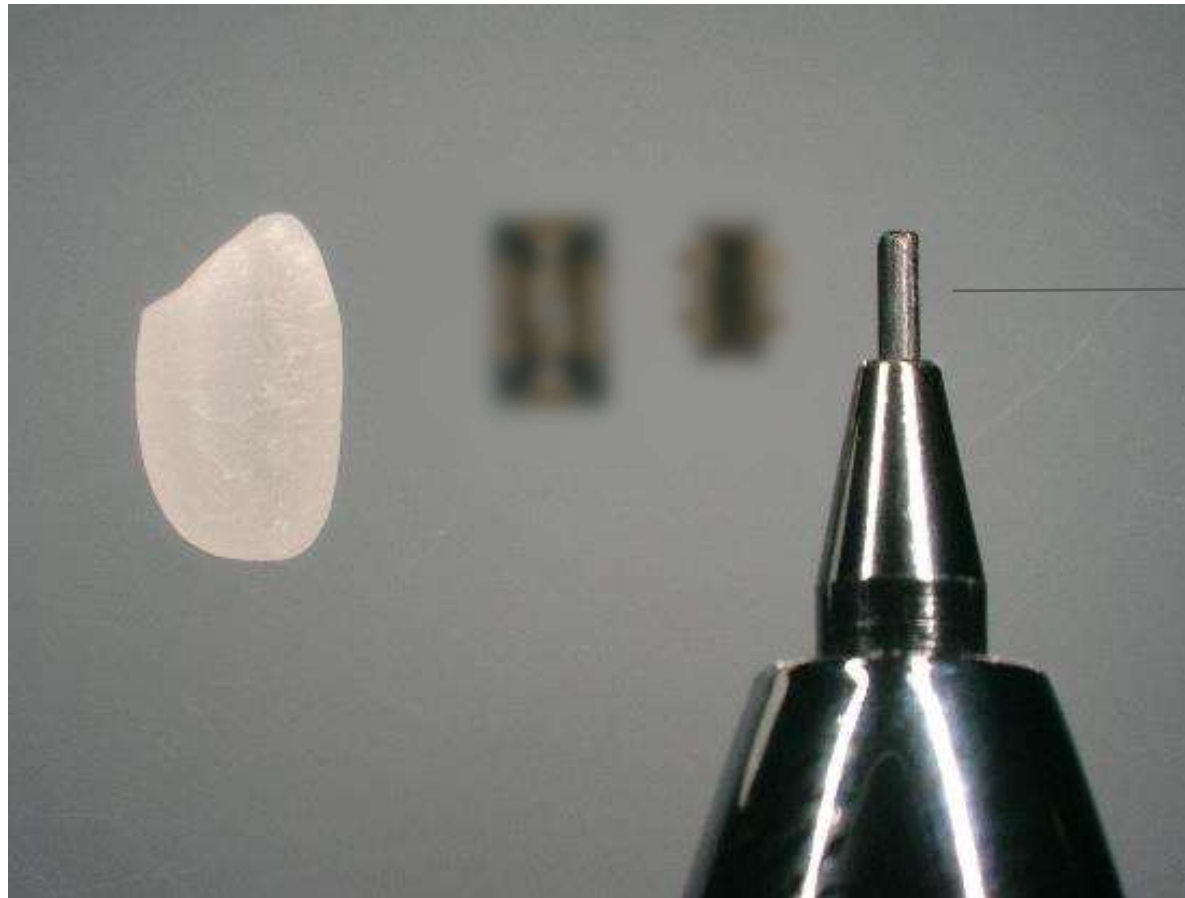




- 世界最高水準の超精密コネクタ部品

使用先…スマートフォン

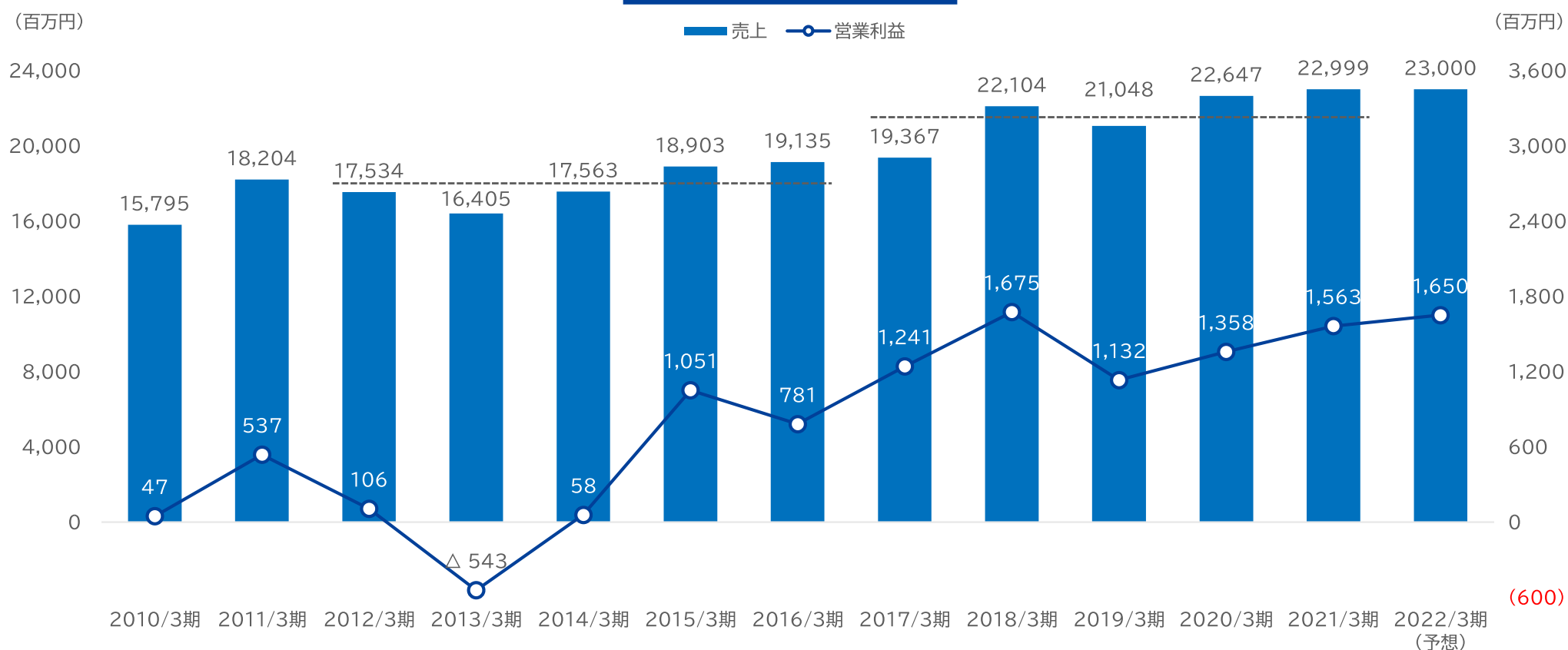
ウェアラブルデバイス(スマートウォッチ、ワイヤレスイヤホン等)



シャープペンシル芯  
( $\Phi$  0.5mm)

- ・ 2015年度～2021年度までで売上高は20.2%の増加となり、230億円の水準へ
- ・ 増収効果に加えて、付加価値の高い狭ピッチコネクタ製品の伸長で、営業利益も15億円超へ
- ・ パワー半導体及び電子部品市場は好調に推移しているが、新型コロナの再拡大と半導体・原材料の供給不足の影響を考慮 → やや保守的な見方

売上高・営業利益の推移



# セグメント別事業構成(2021年3月期)

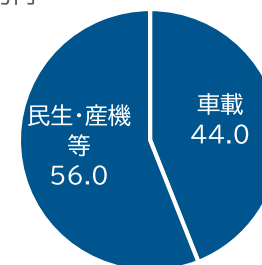
- 車載向けを中心に高電圧・高電流仕様のパワー半導体用リードフレームが伸長
- コネクタ部品ではスマートフォンやウェアラブル端末向けの狭ピッチ、低背製品が伸長

## その他

売上高 688百万円  
構成比 3.0%

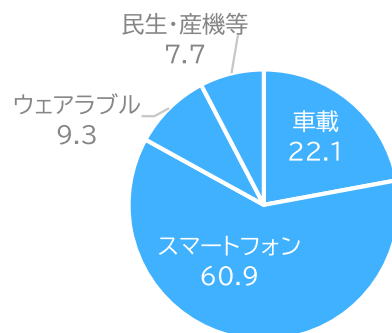
## IC・トランジスタ用リードフレーム

売上高 7,287百万円  
構成比 31.7%



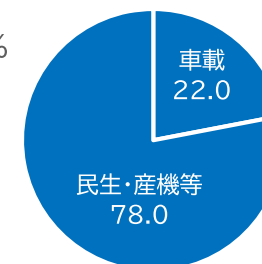
## コネクタ部品

売上高 12,384百万円  
構成比 53.8%

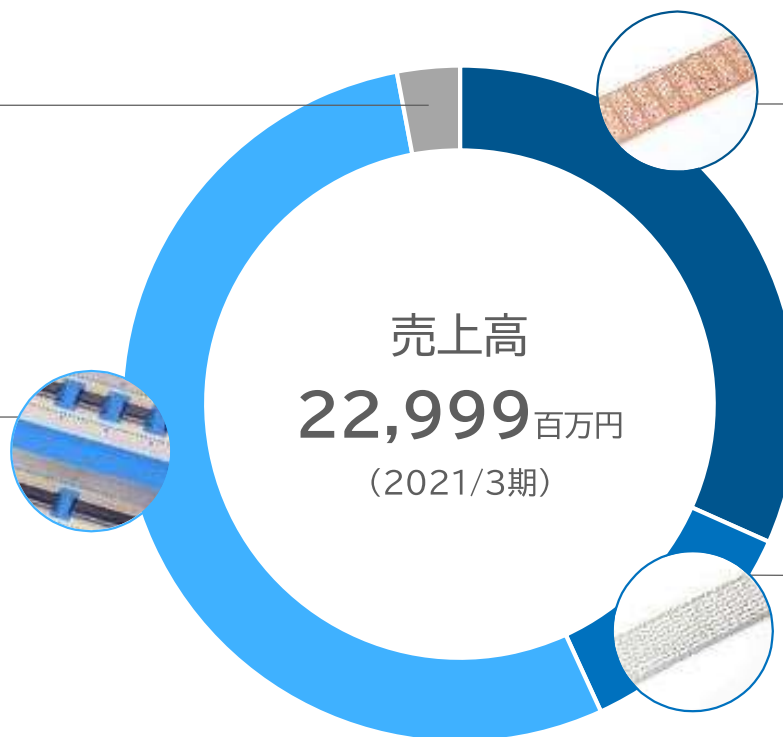


## オプト用リードフレーム

売上高 2,639百万円  
構成比 11.5%



売上高  
22,999百万円  
(2021/3期)



- ウェアラブル端末向けの売上高が前年比70.6%増加し、売上構成比も上昇

## 民生・産機・その他 31.0%

- 構成比は前期の32.4%から1.4pt低下
- データセンターやサーバーといった情報通信関連需要が中長期的な成長の見込み

## 車載 29.0%

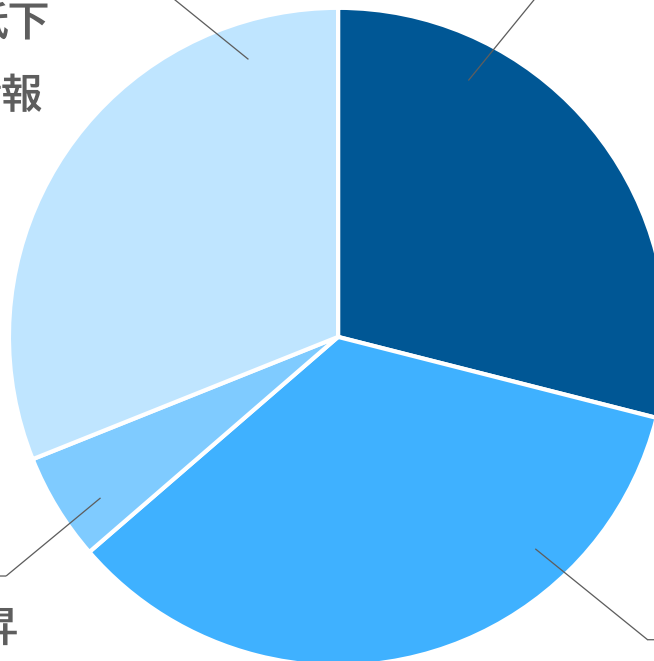
- 構成比は前期の31.0%から2.0pt低下
- 上期は自動車生産台数減少の影響を受け停滞したものの、下期以降は回復基調で推移

## ウェアラブル 5.3%

- 構成比は前期の3.2%から2.1pt上昇
- ヘルスケア需要などにより市場は引き続き成長基調

## スマートフォン 34.7%

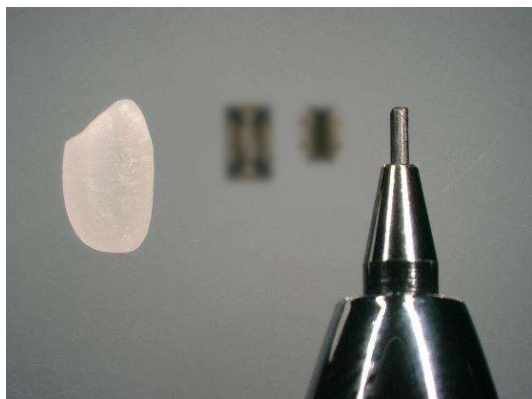
- 構成比は前期の33.5%から1.2pt上昇
- 人の動きの停滞を補完する役割を有するデバイスでもあることから堅調な推移





1

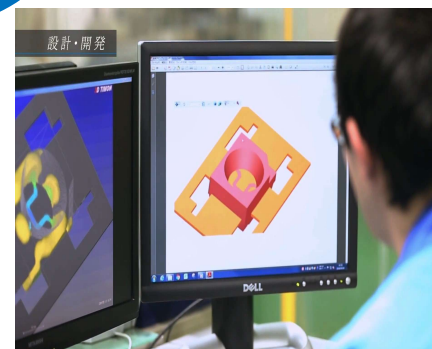
金属と樹脂の複合加工技術力



技術力

2

高品質・大量生産体制を支える  
生産技術力



3

国内外での同品質の生産体制



フィリピン



中国

一貫生産

4

独立系としてのサービスポジション

- ・ 大手電子部品メーカー
- ・ // 半導体メーカー
- ・ // LEDメーカー

## 2.中期経営計画 (2022年3月期～2024年3月期)





社是

心技一体

経営理念

経営の中心は人であり、  
健全なものづくりを通じて、  
豊かな社会の実現に貢献する。

## ビジョン2030

### 「金型の技術で未来を創る」

より小さく より速く 最先端の技術で  
暮らしとビジネスのベストパートナーを目指す

## ありたい姿

- 金型技術の進化で、最先端の市場に高品質な部品をスピーディに提供し続ける
- 失敗を恐れずチャレンジする職場環境づくりを通じてイノベーションを生み出す
- 燃料電池部品の実用化で脱炭素社会の実現に貢献する

- ウェアラブル端末等向けコネクタ、パワー半導体向けリードフレーム増産による増収
- 増収効果に加えて、自動化等により付加価値率(限界利益率)向上で、増益を計画

## 1<sup>st</sup> STEP 目標数値

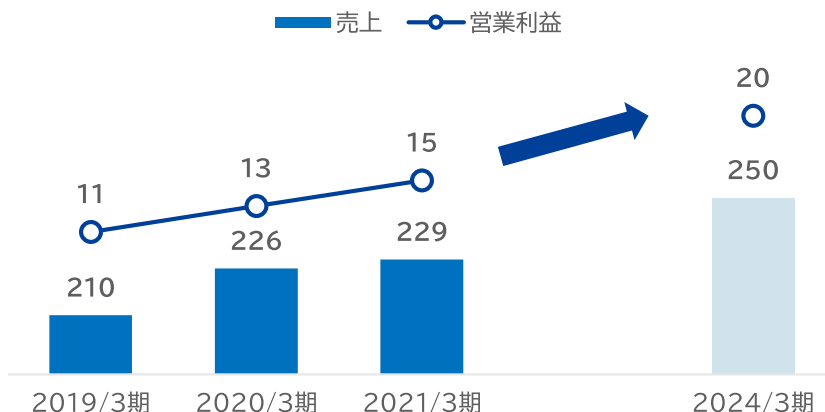


## 増収施策:成長分野への投資

情報通信分野(ウェアラブル端末等)  
⇒ 津軽工場生産能力増強

EV・自動運転分野への注力  
⇒ フィリピン工場での受注強化

## 売上高・営業利益



## 限界利益引き上げ施策

量産工程の自動化

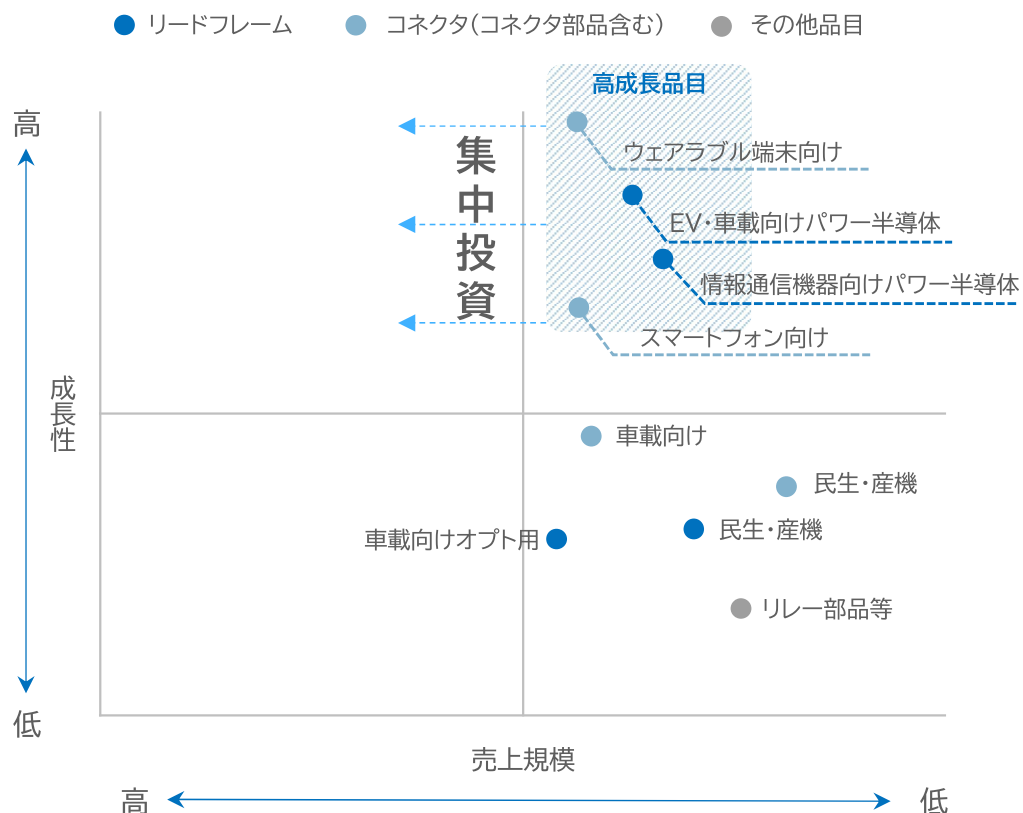
金型製作のデジタル化

海外拠点の強化

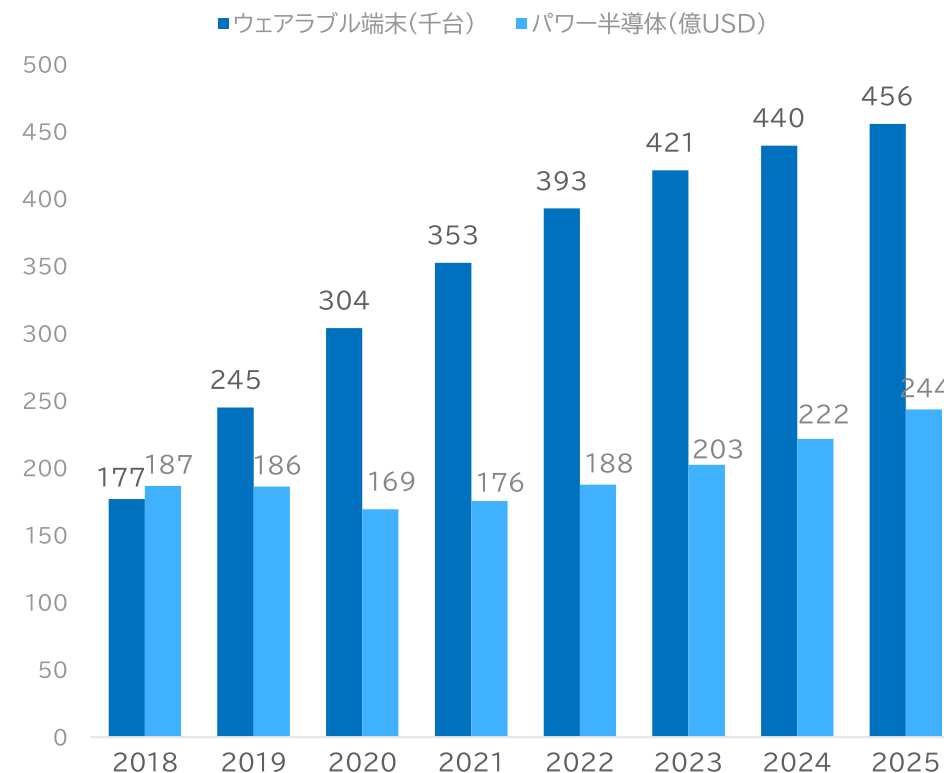


- ウェアラブル端末向けなどの狭ピッチコネクタやパワー半導体向けリードフレームなど、当社の超精密・大量生産技術が活かせる分野に集中投資

## 取扱い品目の成長性



## 成長分野の世界市場予測

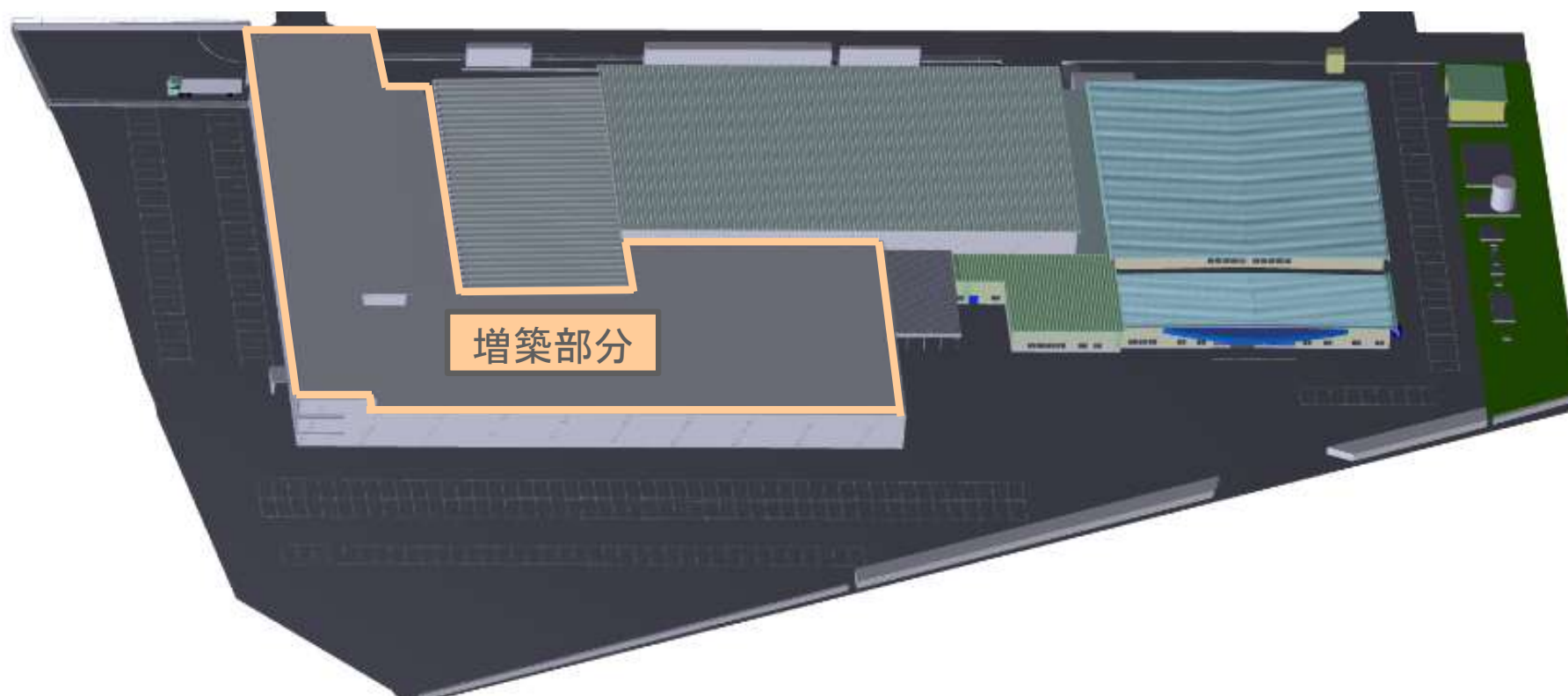


ウェアラブル端末はスマートスピーカー・スマートウォッチ・ヘルスケアバンドの合算

出所:ウェアラブル端末は富士キメラ総研「2020年 ワールドワイドエレクトロニクス市場総調査」  
パワー半導体は矢野経済研究所「2020 進展するパワー半導体の最新動向と将来展望」

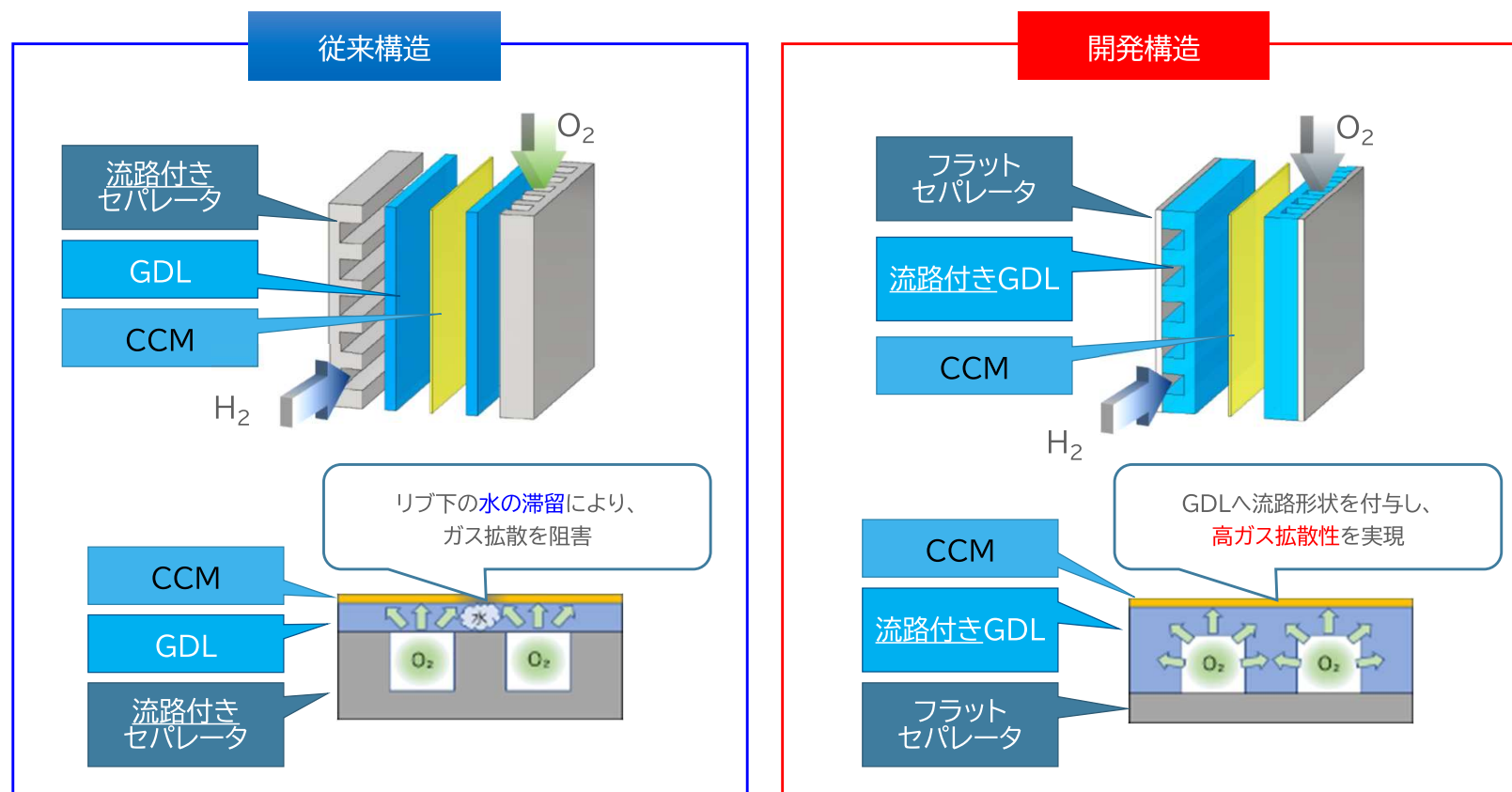
既存工場床面積 :約 8,776㎡  
増築工場床面積(予定):約 7,162㎡  
増築後の工場床面積 :約 15,938㎡  
総投資額(概算) :31億円(建物及び機械、設備等)

増築工事着工 :2021年 1月  
竣工 :2021年11月末 (予定)



## ☆ 当開発事業は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 共通課題解決型産学官連携研究開発事業 採択プロジェクトです

- 固体高分子型燃料電池(PEFC)向けガス拡散層(GDL)一体型金属セパレータを山梨大学と共同開発
- 新開発の流路付きGDL(GDLFC+)で大幅な高電流密度化を実現、当社技術により汎用樹脂にガス流路を成形
- 金属セパレータ、GDLを自社生産し、ガスソケットと一体化し、コストを削減
- 2025年に燃料電池車向けのテスト開始、将来は電気自動車、ドローン、緊急電源、エネファーム等での実現を図る

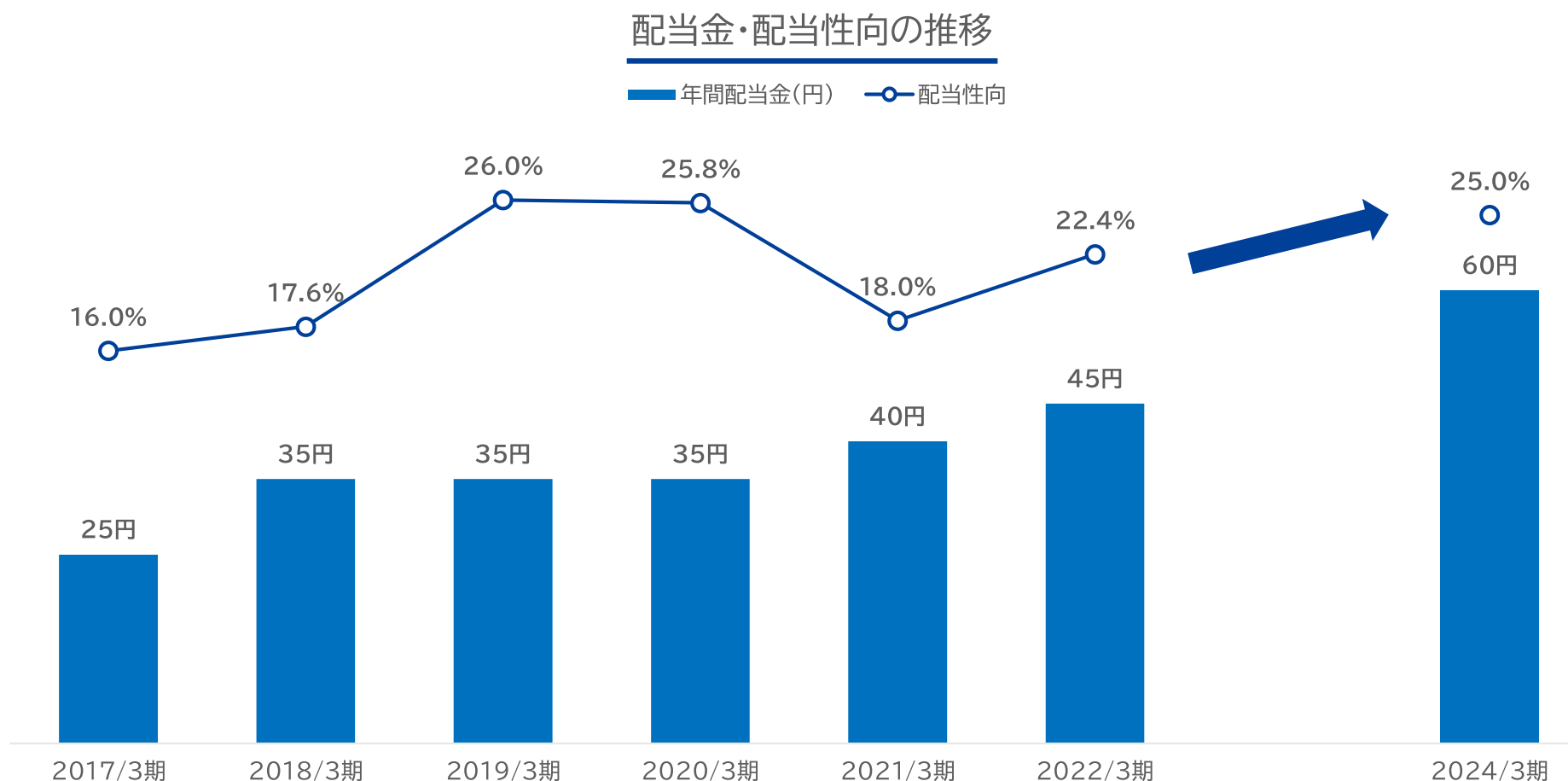


- ・メインターゲットはFCV－2030年FCV市場規模4兆7,520億円(富士経済予測)
- ・2021年3月時において特許6件(国際:4件、国内:2件)出願中
- ・量産に向け2015年比約1/10コストへの削減を目指す





- ・ ビジョン2030 1<sup>st</sup> STEPでは、津軽工場への投資等もあり、増配するも配当性向25%を目途に安定配当を継続
- ・ 随時決算内容及び投資状況を勘案し、更なる配当性向引き上げも検討





- 前期後半からの世界的な自動車及び産業用機器の需要回復や、携帯端末などの消費マインドの改善基調が継続
- 工程改善と大量生産による効率化、高付加価値品の増加により、収益性も向上
- 四半期純利益の減益は、昨年度末の特別利益(繰延税金資産)計上の影響

※ 前年同四半期が新型コロナウイルス感染症の影響が極端に大きく比較対象に適さないため、直前四半期と比較しております

	2021/3期 4Q		2022/3期 1Q		期比較	
	実績 (百万円)	売上比 (%)	実績 (百万円)	売上比 (%)	直前四半期比 (%)	売上比増減 (pt)
売上高	6,238	100.0	6,866	100.0	10.1	-
売上総利益	1,043	16.7	1,196	17.4	14.7	0.7
販管費	588	9.4	553	8.1	△6.0	△1.3
営業利益	454	7.3	643	9.4	41.5	2.1
為替差損	6	0.1	11	0.2	83.3	0.1
経常利益	450	7.2	639	9.3	42.0	2.1
四半期純利益	557	8.9	482	7.0	△13.5	△1.9
1株当たり純利益	82.85円		71.69円			

## 注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。